

教 員 研 究 活 動 一 覧

2024. 1 — 12

基盤看護学領域

看護教育学分野

看護教育学分野は准教授 1 名（井村）、兼務助教 1 名（松田）の 2 名で運営している。そして、大学院看護学専攻（看護教育学分野）博士前期課程には、2 年生 2 名が在籍している。各学年に 1 名ずつ CNE コースの院生がいる。また、博士後期課程には 3 年生 3 名が在籍しており、1 名は秋に博士課程を修了した。残りの 2 名のうち 1 名はインタビュー調査を行っており、あと 1 名は予備調査を終え、次の調査に向かっている段階である。調査を終えて論文執筆中であり、他の 2 名は研究倫理審査提出中あるいは提出準備中である。科研費の支援を受けて「看護学生のコミュニケーション（井村）」については論文執筆を終え、海外雑誌に投稿し、査読に基づいて修正している。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
臨地実習指導における看護教員と実習指導者の抱く要望に関する相互認識	2024.3	三重看護研究会誌 7(1) : 2-11	橋爪さち代, 林 智子, 井村香積

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
新人看護師と教育担当者が捉える Off the job training での学びの On the job training での活用	2024 年 10 月	日本医学看護学教育学会誌 33(1):61-71	松田未来子, 林 智子, 井村香積

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学会研究会名 (開催地)	発 表 者 名
看護師の学習動機づけが学習継続の意思と自己形成意識に与える影響	2024 年 8 月	日本看護研究学会第 50 回学術集会 (奈良)	宮村啓子, 林 智子, 井村香積
手術室での有効な褥瘡予防ケアの方法についての文献検討	2024 年 10 月	第 38 回日本手術看護学会学術大会 (札幌)	椿 涼子, 深谷みゆき, 松田未来子
多職種が関わる退院支援における病棟看護師のコーディネーション自己評価尺度の開発	2024 年 12 月	第 44 回日本看護科学学会学術集会 (熊本)	牛場かおり, 林 智子, 井村香積

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
科研費 基盤研究 (C)	Story Telling と Reflection を用いた看護学生のコミュニケーション教育プログラム	井村香積， <u>松田未来子</u> ， <u>林 智子</u>
科研費 基盤研究 (C)	看護学生の深い自己理解をもたらすコミュニケーション教育方法の開発	井村香積，牧野孝俊， <u>林 智子</u> ， <u>松田未来子</u> ， <u>仲 律子</u>
科研費 基盤研究 (C)	共感的葛藤場面における看護師の共感と他者理解の捉え直しが援助行動に及ぼす影響	<u>林 智子</u> ， <u>井村香積</u>
科研費 基盤研究 (C)	多職種協働でのチーム内の葛藤認知が視点取得と対処行動をへて医療の質に及ぼす影響	<u>林 智子</u> ， <u>井村香積</u>

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本看護研究学会東海地方会	幹事	<u>井村香積</u>

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三医看同窓会	役員	<u>松田未来子</u>
令和6年度 レベルⅤ「看護研究」研修 三重大学医学部附属病院看護部	個別指導	<u>松田未来子</u>
三重県専任教員養成講習会	企画	<u>井村香積</u>
令和6年度 科学研究費審査（基盤研究 C）	審査委員	<u>井村香積</u>

実践基礎看護学分野

実践基礎看護学分野は、教授（榎屋・福録）、講師（松裏）、助教（種田）の4名で運営している。本分野は、悪性腫瘍を含む血液疾患や一般内科疾患を抱える患者を全人的に支援する看護実践に必要な課題を探究する研究（榎屋）、疾病・障害・加齢等による生活上の問題を有する人々に、リハビリテーション看護の視点から看護支援方法や予防的看護システムの構築を探究する研究（福録）、生体リズム、術後せん妄予防ケアや睡眠促進ケアなどICU入室患者の看護に関する研究（松裏）、看護技術教育、リンパ浮腫に関する研究（種田）と幅広いテーマで研究に取り組んでいる。また、大学院生在籍者数は4名であり、博士前期課程・後期課程全院生と教員4名で研究の進捗状況を定期的に話し合う機会を持っている。今年度、1名の学生が看護学基礎ゼミナールⅡにおいて、文献クリティークや卒論発表会への参加、各教員の研究内容、研究手法について触れる機会を通して、研究への興味を高めることができた。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者・共 著 者 名
Bahcc1 is critical for the aberrant epigenetic program in a mouse model of MLL-ENL-mediated leukemia.	2024 年 5 月	Blood Adv. 2024, 8(9): 2193-2206.	Nakamura A, <u>Masuya M</u> , Shinmei M, Tawara I, Nosaka T, Ono R.
Pravastatin prevents colitis-associated carcinogenesis by reducing CX3CR1 ^{high} M2-like fibrocyte counts in the inflamed colon.	2024 年 10 月	Sci Rep. 2024, 14(1): 23021.	Hachiya K, <u>Masuya M</u> , Kuroda N, Yoneda M, Nishimura K, Shiotani T, Tawara I, Katayama N.

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者・共 著 者 名
第113回 看護師国家試験問題解説 国家試験対策 e-Learning「N Plus」	2024 年 5 月	メディカ出版	<u>福録恵子</u> , <u>種田ゆかり</u>

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
ICU 入室患者に対する夜間ケアが睡眠に及ぼす影響について—脳波からみた影響—	2024 年 3 月	第51回日本集中治療医学会学術集会（札幌）	<u>松裏 豊</u> , 大野ゆう子, 名取宏樹, 中村真理子, 市川昭美, 吉井葉未, 上野高義
ICU 入室患者に対し実施されている夜間ケアに関する実態調査	2024 年 3 月	第51回日本集中治療医学会学術集会（札幌）	名取宏樹, <u>松裏 豊</u> , 大野ゆう子, 中村真理子, 市川昭美, 吉井葉未, 上野高義
Building a Self-image Enhancement Program for Osteoporosis Prevention through Multidisciplinary Cooperation	2024 年 3 月	10th International Symposium on Affective Science and Engineering 2024（福岡, Hybrid）	<u>Keiko Fukuroku</u> , Koichiro Takami, Yasuko Nakamura, Yuko Mori, Kei Morita, Hitomi Sumida, Hiroharu Kawanaka
化学療法を受けた骨髄腫関連疾患患者の味覚障害発症頻度及び関連要因について（後方視的コホート研究）	2024 年 5 月	第9回日本サポーターケア学会学術集会（さいたま市）	遠目塚淳, <u>福録恵子</u> , <u>松裏 豊</u> , <u>種田ゆかり</u> , 高村夢香, 佐上裕子, 都築亜美, 俵 功, 関根隆夫, 野村城二, 玉木茂久, 榎屋正浩

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
看護リカレント教育の訪問看護分野における“みえモデル”構築に向けての取り組みの現状	2024 年 5 月	第 6 回三重看護研究会 学術集会（津）	種田ゆかり, 福録恵子, 安積陽子, 江藤由美, 井村香積, 村端真由美
機械学習モデルによる骨粗鬆症患者血液データからの骨密度推定の試みー横断解析モデルの開発ー	2024 年 10 月	第 26 回骨粗鬆症学会 学受集会（金沢）	福録恵子, 北島巧海, 川中普晴, 大浦香織, 隅田仁美, 河野稔文
訪問看護師ののに関わる臨床判断ー臨床判断モデルの気づき・解釈に焦点を当ててー	2024 年 11 月	第 44 回日本看護科学 学会学術集会（熊本）	佐上裕子, 福録恵子, 種田ゆかり, 高村夢香
生物学的製剤治療の意思決定に対する関節リウマチ患者の preference	2024 年 11 月	第 44 回日本看護科学 学会学術集会（熊本）	高村夢香, 福録恵子, 佐上裕子, 種田ゆかり
道徳基盤理論と道徳的感受性の相関ー道徳的基盤理論を用いた看護倫理教育を実施してー	2024 年 11 月	第 44 回日本看護科学 学会学術集会（熊本）	中村美紀, 福録恵子
CMS-50: Healthcare students' skills and perceived burden were shown to improve after 6 months of a single AAC education programme with e-learning	2024 年 12 月	35th International Symposium on ALS/MND (Montreal, Canada)	Takemasa ISHIKAWA, Yugo NARITA, Tamotsu IMURA, Yuji TANAKA, Michiko NAKAI, Keiko FUKUROKU
人工呼吸器装着患者に対する口腔ケア時の看護師の技術と思考	2024 年 6 月	第 20 回日本クリティ カルケア看護学会学術 集会（宜野湾市）	山本綾子, 安井美和, 種田ゆかり

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講演者名	対 象
今日からはじめる骨活！骨と筋肉の健康を保ち骨粗鬆症を予防するためのポイント	健康講座 骨粗鬆症 富田浜病院	2024 年 3 月	福録恵子	市民
各年代における骨粗鬆症予防の重要性と最新の知見	骨粗鬆症予防健康講座 親子で 学ぶ骨の健康 湯元榊原館	2024 年 7 月	福録恵子, 三島 隆, 高見幸一郎, 深田一剛	市民
骨粗鬆症予防の重要性についてー将来のサルコペニアやフレイルの発生リスク低減ー	骨粗鬆症予防健康講座 ご存じ ですか？骨を守るための栄養と 運動 湯元榊原館	2024 年 10 月	福録恵子, 三島 隆, 森田 圭, 高見幸一郎, 深田一剛	市民
こつこつ骨を守りましょう！ 今日からできる骨粗鬆症予防 のための重要ポイント	令和 6 年度 四日市市民大学 21 世紀ゼミナール 三重大学地域拠点サテライト 北勢サテライト（四日市市委託 事業）	2024 年 11 月	福録恵子	市民

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2022年度～2024年度 日本学術振興会 科学研究費基盤 (C)	プロテアソーム阻害剤による味覚障害の発症に関与する要因の解明と看護介入	榎屋正浩
2022年度～2024年年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)	午睡 (Nap time) 導入による睡眠覚醒サイクル改善とせん妄予防効果の検証	松裏 豊
2023年度～2026年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)	上下肢挙上保持の効果検証とセルフケア向上のための簡易挙上保持用具の考案	種田ゆかり
2022年度～2024年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)	AI技術を活用した骨粗鬆症患者のセルフイメージシミュレーションシステムの開発	福録恵子，成田有吾，川中普晴
2024年度 公益財団法人 岡三加藤文化振興財団助成金	出生率と地域特性に関する交互作用を考慮した出生要因分析 AI モデルの構築	北島巧海，川中普晴，福録恵子

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重看護研究会誌	査読委員	福録恵子
三重看護学会	査読委員	福録恵子
第30回 Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム	審査員	福録恵子
三重看護研究会誌	査読委員	種田ゆかり

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本骨髄バンク	バンクドナーのコーディネート	榎屋正浩
令和6年度 附属病院看護部教育 クリニカルリーダーレベル IV 日常ケアから看護研究へ研修	個別指導 (講師)	榎屋正浩
特定行為研修 (三重大学医学部附属病院)	個別指導・評価 (講師)	榎屋正浩
三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会 基礎看護学実習指導の方法 公益社団法人三重県看護協会	講師	福録恵子
レベルⅢ「日常ケアから看護研究へ プレゼンテーションについて」研修 三重大学医学部附属病院看護部	講師	福録恵子
レベルⅣ「日常ケアから看護研究へ」研修 三重大学医学部附属病院看護部	講師 (個別指導)	福録恵子

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
社会医療法人畿内会 岡波専門学校	非常勤講師	福録恵子
公益財団法人 三重県国際交流財団	理事長	福録恵子
令和6年度 みえモデルリカレント研修事業 在宅看護研修会事務局	企画運営委員	福録恵子, 磯和勅子, 岡本双美子, 江藤由美, 村端真由美, <u>種田ゆかり</u>
社会医療法人畿内会 岡波専門学校	非常勤講師	<u>種田ゆかり</u>
令和6年度 レベルⅤ「看護研究」研修 三重大学医学部附属病院看護部	個別指導	<u>種田ゆかり</u>

実践看護学領域

がん看護学分野

がん看護学分野では、終末期のがん関連症状に対する看護支援に関する研究をはじめ、各種レビュー手法を用いた研究、がんサバイバーや家族・遺族の強みに関する研究、ACPに関する研究、緩和ケア教育に関する研究、がんゲノム医療における看護支援の開発に研究に取り組み、その成果を学会発表および論文にて報告してきた。また、ガイドライン作成における成果を各種学会等で普及啓発し、また、論文文化に繋がった。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
Modules From the End-of-Life Nursing Education Consortium: Japan Core Curriculum Necessary for Second- to Fourth-Year Nurses as Assessed by Advanced Practice Registered Nurses.	2024 年 1 月	Cureus 16(1) e51970	<u>Anri Inumaru</u> , Tomoko Tamaki, Mayumi Tsujikawa, <u>Jun Kako</u>
Conclusiveness of the Cochrane Reviews in Family Nursing: A Meta-research Study	2024 年 1 月	Asia Pac J Public Health. 36(1): 111-114.	Kajiwarara K, Ito Y, Tsubaki M, Kobayashi M, Kakeda T, <u>Kako J</u>
COVID-19 流行下の教育支援体制を見直すきっかけとなった新人看護師の様相とそれに対して講じられた教育支援策—看護管理者を対象とした質的研究—	2024 年 3 月	日本看護科学会誌 43: 654-665	遠藤洋次, 木村安貴, 古賀雄二, 小林成光, 清原 花, 原田紀美枝, 石田実知子, 椿美智博, 西田洋子, 脇口優希, 伊東由康, 角甲 純, 掛田崇寛, 佐々木新介, 梶原弘平, 濱西誠司, 山中 真
Associations of nutrition impact symptoms with dietary intake and eating-related distress in patients with advanced cancer	2024 年 4 月	Clin Nutr ESPEN. 60: 313-319	Amano K, Baracos VE, Mori N, Okamura S, Yamada T, Miura T, Tatara R, Kessoku T, Matsuda Y, Tagami K, Otani H, Mori M, Taniyama T, Nakajima N, Nakanishi E, <u>Kako J</u> , Morita T, Miyashita M.
Applicability of Nursing Support for Patients With Terminal Cancer and Their Families: A Delphi Study.	2024 年 4 月	Am J Hosp Palliat Care. 42(2): 145-154.	<u>Kako J</u> , Kajiwarara K, Kobayashi M, Kanno Y, Morikawa M, Nakano K, Matsuda Y, Shimizu Y, Niino M, Suzuki M, Shimazu T.
Conclusiveness of Cochrane Reviews on Nursing Interventions for Patients with Cancer: A Systematic Analysis	2024 年 4 月	JMA J. 7(2): 178-184"	<u>Kako J</u> , Kobayashi M, Kajiwarara K, Ito Y, Tsubaki M, Kakeda T
がん診療連携拠点病院に勤務する医師がアドバンスケアプランニング (ACP) の実践において抱える困難	2024 年 4 月	Palliative Care Research 19(2): 121-128	山口久美子, <u>坂口美和</u> , 辻川真弓
Associations of nutrition impact symptoms with depression in patients with advanced cancer	2024 年 6 月	Support Care Cancer. 32(7): 445.	Amano K, Okamura S, Matsuda Y, Baracos VE, Mori N, Miura T, Tatara R, Kessoku T, Tagami K, Otani H, Mori M, Taniyama T, Nakajima N, Nakanishi E, <u>Kako J</u> , Morita T, Miyashita M

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
Non-pharmacological treatments for anticipatory nausea and vomiting during chemotherapy: a systematic review and meta-analysis of the Clinical Practice Guidelines for Antiemesis 2023	2024 年 7 月	Int J Clin Oncol. 29(7): 889-898	Kobayashi M, <u>Kako J</u> , Iba A, Okuyama A, Ozawa K, Abe M, Wada M, Akechi T, Iihara H, Imamura CK, Kim YI, Sasaki H, Satomi E, Takeda M, Tanaka R, Nakajima TE, Nakamura N, Nishimura J, Noda M, Hayashi K, Higashi T, Boku N, Matsumoto K, Matsumoto Y, Okita K, Yamamoto N, Aogi K, Iino K.
Nursing Support for Constipation in Patients with Cancer: A Scoping Review	2024 年 7 月	J Palliat Med. Jul 29.	Nakano K, Kanno Y, Kajiwarara K, Kobayashi M, Morikawa M, Matsuda Y, Shimizu Y, Shimazu T, <u>Kako J</u>
Treatment Recommendation for Dyspnea in Patients with Advanced Disease: Revised Clinical Guidelines from the Japanese Society for Palliative Medicine.	2024 年 10 月	J Palliat Med. 27(10): 1404-1414	Yamaguchi T, Matsuda Y, Watanabe H, <u>Kako J</u> , Kasahara Y, Goya S, Kohara H, Mori M, Nakayama T
Use of Nursing Support Among Nurses for Caregiver Burden in Family Caregivers of Terminally Ill Patients with Cancer in Palliative Care Units in Japan: Multisite Cross-Sectional Study	2024 年 10 月	Palliat Med Rep. 5(1): 425-429	Kajiwarara K, Kobayashi M, Nakano K, Kanno Y, Morikawa M, Matsuda Y, <u>Kako J</u>
Nursing Practices for Dyspnea Management in Patients with Cancer Based on Monthly and Weekly Prognoses: A Multi-Site Cross-Sectional Study of Palliative Care Nurses in Japan	2024 年 10 月	Palliat Med Rep. 5(1): 440-444	<u>Kako J</u> , Morikawa M, Kajiwarara K, Kobayashi M, Kanno Y, Nakano K, Matsuda Y.
Non-pharmacological intervention for delirium in patients with cancer: a scoping review.	2024 年 11 月	J Pain Symptom Manage. 68(5): e411-e415	<u>Kako J</u> , Kobayashi M, Matsuda Y, Inoue S, Tanimukai H, Wada S, Hasegawa T
外来通院で化学療法を受けている進行がん患者の自己有用感の様相	2024 年 12 月	Palliative Care Research 19(4): 269-278	岡本実保, <u>坂口美和</u> , 辻川真弓, <u>角甲 純</u>

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
Letter to: 'A short staff training system for behavioural and psychological symptoms of dementia in care facilities, based on functional analysis and positive behaviour support: a single-arm pre- and post-comparative study'.	2024 年 3 月	Psychogeriatrics. 24(2): 525-526	Kajiwarara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Etou Y, Yamashita T, Yamanaka M.

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発行年月	発表誌名 巻(号): 頁	著者・共著者名
Response to "The effect of two different types of music played to cancer patients during chemotherapy on anxiety, nausea, and satisfaction levels".	2024 年 4 月	Support Care Cancer. 32(4): 262.	Kobayashi M, <u>Kako J</u> , Kajiwara K.
Reply to: "Psychosocial symptoms associated with spiritual well-being in Latino patients and caregivers coping with advanced cancer"	2024 年 4 月	Support Care Cancer. 32(5): 306	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Etou Y, Yamashita T, Yamanaka M.
【がんの知識と高齢がん患者の看護】 膝がん高齢患者の看護	2024 年 5 月	臨床老年看護 31(3) 46-53	<u>犬丸杏里</u> , 戸倉綾香
Part3 終末期における症状マネジメント：10 呼吸器症状 がん終末期の「呼吸困難」	2024 年 5 月	YORi-SOU が ん ナ ー シング 58: 554-556	<u>角甲 純</u>
Part3 終末期における症状マネジメント：10 呼吸器症状 がん終末期の「咳嗽」	2024 年 5 月	YORi-SOU が ん ナ ー シング 58: 557-558	<u>角甲 純</u>
第 I 章 症状などへの看護ケアのエビデンス：終末期がん患者の経時的変化と看護ケア	2024 年 6 月	緩和ケア 34: 002-005	<u>角甲 純</u> , 青山真帆
第 I 章 症状などへの看護ケアのエビデンス：呼吸困難	2024 年 6 月	緩和ケア 34: 014-020	<u>角甲 純</u>
Reply to: "Loneliness, psychological distress, and the moderating effect of positive aspects of caregiving among cancer caregivers"	2024 年 7 月	Support Care Cancer. 32(8): 556	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Ito Y, Tsubaki M, Yamanaka M, Sakuramoto H, Kakeda T
書評：ようこそ緩和ケアの森 がん・非がん患者の呼吸器症状を診る	2024 年 7 月	がん看護 29: 468	<u>角甲 純</u>
The effect of music-based caregiving intervention on pain intensity in nursing home patients with dementia.	2024 年 8 月	Pain. 165(8): 1890.	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Ito Y, Tsubaki M, Kobayashi M, Kakeda T.
Reply to: "Quality of life and death anxiety among caregivers of patients with advanced cancer: the mediating effect of trait anxious personality and the moderating effect of social support"	2024 年 9 月	Support Care Cancer. 32(10): 655.	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Ito Y, Tsubaki M, Yamanaka M, Sakuramoto H, Kakeda T
Reply to 'The clinical application value of psychological nursing intervention for patients with prostatic hyperplasia during treatment'.	2024 年 11 月	Psychogeriatrics. 24(6): 1423-1424	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Etou Y, Yamashita T, Yamanaka M.
Re: Family caregivers use a hand-under-hand online course to improve the nutritional status of patients with severe dementia: A quasi-experimental study.	2024 年 11 月	Geriatr Gerontol Int. 24(11): 1250-1251	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Etou Y, Yamashita T, Yamanaka M.

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
臨床経験 2-4 年目の看護師を対象とした オンライン緩和ケアシミュレーション教育 プログラムのパイロット試験	2024 年 2 月	第 38 回日本がん看護 学会学術集会（神戸市）	犬丸杏里, 玉木朋子, <u>坂口美和</u> , 武田佳子, 関根万里子, 辻川真弓, 角甲 純
Effectiveness of Online Role-Playing Education Programs for Palliative Care for Competent Nurses in Japan	2024 年 3 月	27th EAFONS 2024 （香港）	Anri Inumaru, Tomoko Tamaki, Mayumi Tsujikawa
男性における HPV ワクチン接種に関す る認識と知識に関する文献検討	2024 年 5 月	第 6 回三重看護研究会 学術集会（津市）	飯田彩希, <u>武田佳子</u>
臨床疑問 14 がん患者のせん妄症状に対 する非薬物療法：スコーピングレビュー	2024 年 6 月	第 29 回日本緩和医療 学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロ ジー学会総会合同学術 大会（神戸市）	角甲 純, 小林成光, POS ガイドライン策定委員会せ ん妄小委員会
がん患者の看護介入に関する Cochrane Review の結論性：A Systematic Analysis	2024 年 6 月	第 29 回日本緩和医療 学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロ ジー学会総会合同学術 大会（神戸市）	小林成光, 角甲 純, 梶原弘平, 伊東由康, 椿美智博, 掛田崇寛
家族看護に関する Cochrane Review の結 論性：A Meta-research Study	2024 年 6 月	第 29 回日本緩和医療 学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロ ジー学会総会合同学術 大会（神戸市）	伊東由康, 椿美智博, 梶原弘平, 小林成光, <u>角甲 純</u> , 掛田崇寛
終末期がん患者の疼痛に対する看護支援 についての適用可能性の検討 :Delphi 研 究	2024 年 6 月	第 29 回日本緩和医療 学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロ ジー学会総会合同学術 大会（神戸市）	森川みはる, 梶原弘平, 小林成光, 菅野雄介, 中野貴美子, 松田能宣, 清水陽一, 鈴木美穂, 新野真理子, 島津太一, <u>角甲 純</u>
終末期がん患者の呼吸困難に対する看 護支援についての適用可能性の検討： Delphi 研究	2024 年 6 月	第 29 回日本緩和医療 学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロ ジー学会総会合同学術 大会（神戸市）	<u>角甲 純</u> , 森川みはる, 梶原弘平, 小林成光, 菅野雄介, 中野貴美子, 松田能宣, 清水陽一, 鈴木美穂, 新野真理子, 島津太一
終末期がん患者の悪心・嘔吐に対する 看護支援についての適用可能性の検討： Delphi 研究	2024 年 6 月	第 29 回日本緩和医療 学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロ ジー学会総会合同学術 大会（神戸市）	小林成光, 梶原弘平, 森川みはる, 菅野雄介, 中野貴美子, 松田能宣, 清水陽一, 鈴木美穂, 新野真理子, 島津太一, <u>角甲 純</u>
終末期がん患者の便秘に対する看護支援 についての適用可能性の検討 : Delphi 研 究	2024 年 6 月	第 29 回日本緩和医療 学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロ ジー学会総会合同学術 大会（神戸市）	中野貴美子, 菅野雄介, 小林成光, 梶原弘平, 森川みはる, 松田能宣, 清水陽一, 鈴木美穂, 新野真理子, 島津太一, <u>角甲 純</u>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
終末期がん患者のせん妄の発症予防を目的とした看護支援についての適用可能性の検討 : Delphi 研究	2024 年 6 月	第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会 (神戸市)	菅野雄介, 中野貴美子, 小林成光, 梶原弘平, 森川みはる, 松田能宣, 清水陽一, 鈴木美穂, 新野真理子, 島津太一, 角甲 純
終末期がん患者の家族介護者の介護負担に対する看護支援についての適用可能性の検討 : Delphi 研究	2024 年 6 月	第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会 (神戸市)	小林成光, 梶原弘平, 森川みはる, 菅野雄介, 中野貴美子, 松田能宣, 清水陽一, 鈴木美穂, 新野真理子, 島津太一, 角甲 純
積極的ながん治療が困難な状況にいても幸せでいられる人の「意識の不思議な体験」とその意味—講演内容の分析より—	2024 年 8 月	日本看護研究学会 第 50 回学術集会 (奈良市)	坂口美和
訪問看護師が捉える人生の最終段階を自宅で生きる人のスピリチュアルニーズとケア	2024 年 11 月	日本在宅看護学会 第 14 回学術集会 (船橋市)	佐々木裕子, 坂口美和, 小塩康代, 伊藤寿英, 西川まり子
異なる状況下において実施した客観的臨床技能試験 (OSCE) における評価者間信頼性の検討	2024 年 12 月	第 44 回日本看護科学学会学術集会 (熊本市)	藤井 誠, 玉木朋子, 横井弓枝, 中村美保子, 犬丸杏里, 大野ゆう子, 辻川真弓
多人数参加型 End-of-Life ケアシミュレーションが参加した看護学生のレジリエンスに与える影響	2024 年 12 月	第 44 回日本看護科学学会学術集会 (熊本市)	横井弓枝, 玉木朋子, 藤井 誠, 中村美保子, 犬丸杏里, 辻川真弓
看護学生対象の多人数参加型 End-of-Life ケアシミュレーションの対象施設を拡大した評価	2024 年 12 月	第 44 回日本看護科学学会学術集会 (熊本市)	玉木朋子, 横井弓枝, 中村美保子, 藤井 誠, 犬丸杏里, 笠原聡子, 辻川真弓
多人数参加型 End-of-Life ケアシミュレーションの評価: 教育背景が異なる大学での前後比較試験	2024 年 12 月	第 44 回日本看護科学学会学術集会 (熊本市)	中村美保子, 玉木朋子, 横井弓枝, 藤井 誠, 笠原聡子, 犬丸杏里, 辻川真弓

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講演者名	対 象
緩和とサイコの臨床研究, 看護師からの up to date	第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会	2024 年 6 月	角甲 純	学会参加者
呼吸困難に対する看護ケアのエビデンスと実践のポイント	第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会	2024 年 6 月	角甲 純	学会参加者
せん妄 GL を使いこなそう!	第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会	2024 年 6 月	角甲 純	学会参加者

＜公的機関，民間等との研究上の協力状況＞

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2021～2024 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	一般市民の人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）を支援する取り組みとその評価	研究代表者：辻川真弓 研究分担者：松原貴子， 黒澤（犬丸）杏里，玉木朋子， 船尾浩貴， <u>武田佳子</u> ， 坂口美和
2023～2025 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	看護師を対象とした緩和ケアシミュレーション教育の評価：オンラインでの試み	研究代表者： <u>黒澤（犬丸）杏里</u> 研究分担者：玉木朋子， 坂口美和， <u>武田佳子</u> ， 辻川真弓
2022～2024 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	がん遺伝子パネル検査を受ける患者に対する看護支援の開発	研究代表者： <u>武田佳子</u> 研究分担者：望木郁代， 奥川喜永，辻川真弓， 北嶋貴仁，藤原拓海， 坪井順哉，井上佳代， 坂口美和
2021～2024 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（B）	終末期のがん関連症状に対する看護支援におけるエビデンスの基盤形成の確立	研究代表者： <u>角甲 純</u> 研究分担者：菅野雄介， 梶原弘平，小林成光， 中野貴美子，松田能宣， 島津太一，清水陽一， 堀芽久美，鈴木美穂， 新野真理子
2021～2024 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	認知症高齢者の在宅介護者における介護行動の可視化手法の確立	研究代表者：梶原弘平 研究分担者：緒方文子， <u>角甲 純</u> ，原田紀美枝
2023～2027 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	通院治療中のがん患者に対する就労継続への看護支援プログラムによる介入研究	研究代表者：小林成光 研究分担者：林 直子， 増島麻里子， <u>角甲 純</u>
2024～2027 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（B）	AI を用いた臨床看護データ解析による家族看護実践可視化システムの開発	研究代表者：本田順子 研究分担者：竹村匡正， 築田 誠，野島敬祐， 横田慎一郎， <u>角甲 純</u> ， 福井美苗
日本緩和医療学会 2022 年度緩和ケアに関する研究助成	がん患者における片側性胸水に伴う呼吸困難に対する体位交換の有効性に関するランダム化クロスオーバー比較試験	研究代表者： <u>角甲 純</u>
2022～2024 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	在宅でエンドオブライフを生きる訪問看護利用者への在宅スピリチュアルケアの明確化	研究代表者：佐々木裕子 研究分担者：坂口美和， 小塩康代，伊藤寿英， 西川まり子

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本がん看護学会	ガイドライン委員会 急性放射線皮膚炎のケアに関する合同ガイドライン 作成ワーキング委員：委員長	角甲 純
日本がん看護学会	がん看護技術・開発委員会委員	角甲 純
日本がん看護学会	代議員	角甲 純
日本がん看護学会	査読委員	角甲 純
第 38 回日本がん看護学会学術集会	査読員	角甲 純
第 39 回日本がん看護学会学術集会	一般演題・査読担当	角甲 純
日本サイコオンコロジー学会	ガイドライン策定委員会せん妄小委員会ガイドライン委員：副委員長	角甲 純
日本サイコオンコロジー学会	広報・普及啓発 ホームページ担当小委員会	角甲 純
日本サイコオンコロジー学会	保険診療対策委員会	角甲 純
日本サイコオンコロジー学会	代議員	角甲 純
日本サイコオンコロジー学会	第 38 回日本サイコオンコロジー学会総会ワーキンググループ委員「1. 医学ケア」	角甲 純
日本緩和医療学会	Palliative Care Research 編集委員会：副委員長	角甲 純
日本緩和医療学会	呼吸器症状ガイドライン改訂 WPG 員	角甲 純
日本緩和医療学会	学術大会支援メンバー WG WG 員	角甲 純
日本緩和医療学会	健康保険・介護保険委員会	角甲 純
日本緩和医療学会	利益相反委員会	角甲 純
日本緩和医療学会	第 28 回日本緩和医療学会学術大会支援メンバー WG WG 員	角甲 純
日本緩和医療学会	PCA 普及のための調査研究 WPG WPG 副員長	角甲 純
第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会	WG6 副 WG 長	角甲 純
第 30 回日本緩和医療学会学術大会	WG6 WG 長	角甲 純
日本緩和医療学会	東海・北陸支部支部運営委員会 (WPG)	角甲 純
日本看護科学学会	和文誌専任査読委員	角甲 純
第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会	座長「緩和とサイコ，最新の研究 up to date」	平塚裕介，角甲 純

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会	座長「優秀演題口演 2」	角甲 純, 市倉加奈子
日本緩和医療学会第 6 回東海・北陸支部学術大会	座長「口演 3 精神心理」	杉下美保子, 角甲 純
第 38 回日本がん看護学会学術集会	査読委員	坂口美和
日本がん看護学会	代議員	坂口美和
死の臨床研究会	査読委員	坂口美和
第 6 回三重看護研究会学術集会	査読委員	坂口美和
第 3 回医療における魂・霊性研究会	企画・運営	坂口美和

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
公益社団法人三重県看護協会 三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会 「看護教育課程 看護課程」	講義・演習	辻川真弓, 犬丸杏里
レベルⅣ「日常ケアから看護研究へ」 量的研究とは	講義	角甲 純
青海社「緩和ケア」	編集委員	角甲 純
青海社「緩和ケア」2024 年 6 月増刊号	編集	角甲 純, 青山真帆, 西 智弘, 森 達也
南江堂「がん看護」	アドバイザー	角甲 純
レベルⅣ「日常ケアから看護研究へ」 質的研究	講義	坂口美和
レベルⅣ「日常ケアから看護研究へ」	研修サポート	坂口美和
アピランスケア指導者育成研修 「よりよい研修の企画を目指して」	講義	坂口美和
三重県がんにおける質の高い看護師育成研修 「家族のケア」	講義	坂口美和
公益社団法人三重県看護協会 三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会 「成人看護学 実習指導の実際」	講義	坂口美和
三重県看護協会	研究倫理委員	坂口美和

成人看護学分野

成人看護学分野では周術期のケアの連携に関する研究を推進するために、術後管理の状況の VR (vertial relity) 教材作成、急性期看護を次の療養機関につなぐためのサマリーの有り方についての研究の基礎かためを実施した。

分野に所属する大学院生の研究として、ALS 患者の意思決定に関与する価値観、薬剤管理における看護師の認知状況、不妊治療に関連する支援の在り方、ロボット手術における医療者間のコミュニケーションに関するものを支援した。

<総説、報告、資料、論説、解説、その他>

総説、報告、資料、論説 解説、その他の名称	発行年月	発表誌名 巻(号): 頁	著者・共著者名
Strategies to Promote Physical Activity among Sedentary Metaverse Residents.	2024 年 11 月	Prog Rehabil Med. 2024;9:20240038.	Momosaki R, Tora K, Shirai Y, <u>Funao H.</u>
Virtual Reality Applied Home-Visit Rehabilitation for Patients with Chronic Pain: Protocol for Single-Arm Pre-Post Comparison Study.	2024 年 11 月	JMIR Research Protocols. 2024;58734.	<u>Funao H.</u> , Momosaki R, Tsujikawa M, Kawamoto E, Esumi R, Shimaoka M.

<口述発表>

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
バーチャルリアリティ (VR) を利用した訪問リハビリテーションによる疼痛緩和効果：慢性疼痛患者を対象とした前後比較試験	2024 年 3 月	第 13 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会 (四日市市)	船尾浩貴, 辻川真弓, 川本英嗣, 百崎 良

<公的機関、民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2021～2024 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C)	仮想現実感 (VR) による在宅リハビリテーション促進策の開発	研究代表者：船尾浩貴 研究分担者：島岡 要, 百崎 良, 川本英嗣, 辻川真弓
2021～2024 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C)	一般市民の人生会議 (アドバンス・ケア・プランニング) を支援する取り組みとその評価	研究代表者：辻川真弓 研究分担者：松原貴子, 黒澤 (犬丸) 杏里, 玉木朋子, 船尾浩貴, 武田佳子, 坂口美和

母性看護・助産学分野

母性看護学・助産学では、教授（安積）、准教授（齋藤）、助教（近藤）、助教（高橋）の4名で運営している。本分野では、性と生殖の観点から女性のライフサイクル、胎児期から成熟期に焦点を当て、対象の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、女性のライフサイクル全般を対象に、現象を理解し、介入方法の検討に関して研究活動を行なっている。

具体的には、周産期にある対象とその家族の睡眠リズムとメンタルヘルス、母乳育児支援に関する共同研究（安積）、異文化下での出産経験（齋藤）、周産期の冷え症（近藤）、帝王切開を受ける女性への支援（高橋）をテーマに研究を進めている。大学院（博士前期課程・後期課程）の在籍者数は3名である。大学院生が取り組む研究は、定期的に合同で研究の進捗状況を検討する機会を持っている。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
診療所で立ち会い出産をした夫の経験	2024 年 3 月	和歌山県母性衛生学会誌 9: 9-14	齋藤真希, 近藤 萌, 松尾風花, 松下真子, 小川原つぐみ
診療所で夫立ち会い出産をした妻の経験	2024 年 3 月	和歌山県母性衛生学会誌 9: 15-20	齋藤真希, 近藤 萌, 松尾風花, 松下真子, 小川原つぐみ
Work engagement influencing factors of Japanese midwives working in prenatal medical centers.	2024 年 3 月	Eur J Midwifery. 11; 8. doi: 10.18332/ejm/ 183805.	Fukuya Y, <u>Asaka Y.</u>
Exploring the relationship between pain intensity, self-management of pain and pain self-efficacy on post-operative pain on day 5 after cesarean section: A cross-sectional study in Mie prefecture in Japan.	2024 年 11 月	Eur J Midwifery. 25; 8. doi: 10.18332/ejm/ 194961.	<u>Takahashi K</u> , <u>Asaka Y.</u>
A Longitudinal Study on Parent-Infant Rest- Activity Rhythms Using Actigraphy From Late Pregnancy to Eight Months After Birth	2024 年 12 月	Cureus. Cureus 16(12): e76029. DOI: 10.7759/ cureus.76029	<u>Asaka Y</u> , Kondo C.

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
【小児科医が知っておくべき子どもの眠り】基礎疾患と睡眠障害 早産児・低出生体重児と睡眠障害（解説）	2024 年 8 月	小 児 内 科 56(8): 1279- 1285	兼次洋介, <u>安積陽子</u> , 三谷裕介, 水島正人, 中川真智子, 大石芳久, 安達裕行, 新井浩和, 池田尊司, 吉村優子, 菊知 充, 長 和俊, 太田英伸
助産所における夫立ち会い出産の体験	2024 年 11 月	日本看護科学学会誌 44: 473-481	齋藤真希, 藪内美南海, 田中夢乃, 武政亜美, 要 輝奈

<著書・訳書>

著書・訳書の名称 分担領域	発行年月	発行所名	共著・共訳者名
【小児科医が知っておくべき子どもの眠り】基礎疾患と睡眠障害 早産児・低出生体重児と睡眠障害（解説）	2024 年 8 月	小児内科 56(8): 1279-1285	兼次洋介, 安積陽子, 三谷裕介, 水島正人, 中川真智子, 大石芳久, 安達裕行, 新井浩和, 池田尊司, 吉村優子, 菊知 充, 長 和俊, 太田英伸

<口述発表>

発 表 演 題 名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発 表 者 名
Perinatal Experiences of Non-Japanese Women in Japan During the COVID-19 Pandemic	2024 Feb	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong)	<u>Maki Saito</u>
看護リカレント教育の訪問看護分野における“みえモデル”構築に向けての取り組みの現状	2024 年 5 月	第 6 回三重看護研究会 学術集会（三重）	種田ゆかり, 福録恵子, 安積陽子, 江藤由美, 井村香積, 村端真由美
乳頭損傷治療における保湿の有効性 システマティックレビュー	2024 年 5 月	第 80 回日本助産師学会（東京）	中村真弥, 羅 云潔, 安積陽子, 蝦名康彦
テキストマイニング分析による全国勤務助産師の妊婦の冷え症に対する認識の検討	2024 年 5 月	第 80 回日本助産師学会（東京）	近藤桃子, 安積陽子, 谷村 晋, 村端真由美
思春期における 1 型糖尿病管理に対する親子の認識.	2024 年 7 月	第 29 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会（福岡）	松本 宙, 上田敏丈, 仁尾かおり, 安積陽子, 柚山賀彦, 西川直子, 須永紋奈, 大梅成崇, 堀田優子, 川村智行
銀製乳頭保護器の使用下における授乳期乳頭の経時的変化の検討	2024 年 10 月	第 38 回日本助産学会学術集会（東京）	中村真弥, 安積陽子, 蝦名康彦
術後 5 日の帝王切開術後疼痛と疼痛自己効力感および EPDS との関連	2024 年 10 月	第 38 回日本助産学会学術集会（オンライン）	高橋恭子, 安積陽子
帝王切開術後女性の術後 5 日の術後疼痛および自己疼痛管理の実態	2024 年 10 月	第 65 回日本母性衛生学会学術集会（宮崎市）	高橋恭子, 安積陽子
日本国内における周産期喪失を経験した家族の入院中の体験に関する文献検討	2024 年 10 月	第 38 回日本助産学会学術集会（オンライン）	谷口比佳里, 齋藤真希, 高橋恭子
日本国内における周産期喪失を経験した家族の退院後の体験に関する文献検討	2024 年 10 月	第 38 回日本助産学会学術集会（オンライン）	高橋恭子, 谷口比佳里, 齋藤真希
Development of nipple trauma evaluation system with deep learning	2024 年 11 月	29th Annual International Meeting (Illinois, US)	Maya Nakamura, Hiroyuki Sugimori, <u>Yoko Asaka</u> , Yasuhiko Ebina
Comparing predictors of breastfeeding self-efficacy(BSE) among Mothers of full-term infants with and without NICU admission	2024 年 11 月	29th Annual International Meeting (Illinois, US)	Mika Nakatani, <u>Yoko ASAKA</u>
医療者に求められる帝王切開を受ける女性への支援 —「帝王切開での出産体験」の概念分析からの考察—	2024 年 12 月	第 44 回日本看護科学学会学術集会（熊本市）	高橋恭子, 齋藤真希

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
夫の行いに着目した妊娠中の妻の感情・精神状態・思いに関する文献検討	2024 年 12 月	第 38 回 三重母性衛生学会学術集会（津市）	高橋那奈, 齋藤真希
分娩期における分娩支援システムの使用の有効性	2024 年 12 月	第 38 回 三重母性衛生学会学術集会（津市）	平田未弥妃, 岩間早紀, 荒川靖子, 藤田めぐみ, 紀平正道, 高橋恭子, 近藤桃子

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
シンポジウム 20「オープンサイエンス時代に助産学会誌が目指すところ」	第 38 回 日本助産学会学術集会（東京）	2024 年 10 月	和泉美枝, 藤田 愛, 安積陽子, 清水 彩	研究を志す助産師, 助産師学生

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研 究 補 助 機 関 名	研 究 課 題	研 究 者 名
2017～2024 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））	出産後 1 年間の睡眠覚醒リズムと夫婦のメンタルヘルスに関する縦断研究	安積陽子
2023～2025 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））	助産学生へのバースレビュー実践能力の獲得に向けたシミュレーション教育の開発	安積陽子, 近藤桃子
令和 4 年度 - 令和 6 年度 独立行政法人学術振興会科学研究助成事業（若手研究）	異文化下で出産する女性の対処についての理論化	齋藤真希
2022～2024 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）	妊婦に対する冷え症ケアと妊娠経過に関する研究	近藤桃子

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本母性学会	代議員	安積陽子
日本母性衛生学会	査読委員	安積陽子
日本助産学会	代議員	安積陽子
日本助産学会	編集委員会	安積陽子
三重母性衛生学会	理事長	安積陽子
三重看護研究会	学会企画委員	安積陽子
BMC public health	reviewer	安積陽子

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
Journal of human lactation	reviewer	安積陽子
Journal of Nursing Management	reviewer	安積陽子
Scientific report	reviewer	安積陽子
Discover Psychology	reviewer	安積陽子
三重県胎児・新生児研究会	世話人	安積陽子
日本助産学会	専任査読委員	齋藤真希
日本助産学会	第 38 回日本助産学会学術集会 査読委員	齋藤真希
日本国際看護学会	査読委員	齋藤真希
三重看護研究会	第 6 回三重看護研究会学術集会 一般演題抄録選考委員	齋藤真希
三重母性衛生学会	学会事務局	齋藤真希, 近藤桃子, 高橋恭子

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本助産師会	倫理委員会委員長	安積陽子
厚生労働省保健師助産師看護師部会	外部委員	安積陽子
全国助産師教育協議会	中部地区地区長	安積陽子
全国助産師教育協議会	選挙管理委員	安積陽子
令和 6 年度 レベル IV「日常ケアから看護研究へ」 研修 三重大学医学部附属病院看護部	研究指導	齋藤真希
令和 6 年度三重県妊産婦のほっとスポット構築モデル事業 三重県助産師会	三重県主催の産後ケアにおける支援	高橋恭子
第 11 回キッズ☆おしごと広場 三重県助産師会	助産師の仕事のアピール	高橋恭子
三重県助産師会 東海北陸地区研修会準備委員会	研修会の企画・運営	高橋恭子
全国助産師教育協議会中部地区総会・研修会	事務局	近藤桃子, 高橋恭子

小児看護学分野

小児看護学分野では、小児がんの長期フォローアップや炎症性腸疾患のあるこどもの生活支援等の他、終末期ケアなど小児緩和ケアに関する研究に取り組み、その成果を学会発表、論文投稿した。今年度も、日本版小児緩和ケア看護師教育プログラムを三重大学主催で開催し、その成果に関する評価研究を続けている。研究的取り組みは、学内教員だけでなく附属病院など臨床の看護師との共同研究を行い、学会で報告した。また、三重県内の小児医療に携わる看護師を対象とした講義の他、他大学大学院での授業担当など、小児看護の教育活動にも広く従事してきた。さらに、三重県内の小児看護に携わる看護職が集い、健康問題や障害のあるこどもとその家族への看護について考える場として『みえ小児看護勉強会』を企画開催し、ネットワークづくりにも力を入れた。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
The Experience of Adolescents and Young Adults in Their Cancer Journeys in Japan: I Try to Move Forward With Feeling That I Would Be Okay With "My Cancer".	2024 年 7 月	Journal of adolescent and young adult oncology 13(6): 826-834	Takenouchi N, <u>Matsuoka M</u>

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
A Case of Successful Rehabilitation for Controlling Chronic Pain Following Osteonecrosis of the Femoral Head in a Young Adult Cancer Survivor.	2024 年 1 月	Cureus 16(1): e52120	Aoyama T, <u>Matsuoka M</u>
こどもとの対話; 日常場面の“ケア”としてのコミュニケーション	2024 年 12 月	小児看護 47(12): 1417-1431	<u>松岡真里</u>

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
Effectiveness of the 23-valent Pneumococcal Polysaccharide Vaccine Against Community-acquired Pneumonia in Older Individuals After the Introduction of Childhood 13-valent Pneumococcal Conjugate Vaccine: A Multicenter Hospital-based Case-control Study in Japan	2024 年 5 月	American Thoracic Society(ATS) 2024 (USA)	K.Nakashima, K.Suzuki, M.Aoshima, <u>M.Murabata</u> , K.Kondo, Ohfuji, W.Fukushima, A.Maeda, Y. Hirota, Pneumonia in Elderly People
テキストマイニング分析による全国勤務助産師の妊婦の冷え症に対する認識の検討	2024 年 5 月	第 80 回日本助産師学会 (東京)	近藤桃子, 安積陽子, 谷村 晋, <u>村端真由美</u>
看護リカレント教育の訪問看護分野における“みえモデル”構築に向けての取り組みの現状	2024 年 5 月	第 6 回三重看護研究会 学術集会 (三重県津市)	種田ゆかり, 福録恵子, 安積陽子, 江藤由美, 井村香積, <u>村端真由美</u>
長期個室隔離中にテレプレゼンスロボットを使用したこどもの体験～自分で行える, つながる感覚をもてること～	2024 年 12 月	第 22 回日本小児がん看護学会 (京都)	野村七海, 加藤沙耶佳, 寺田桂子, 西村規予子, 河野由貴, <u>南部美智子</u> , <u>松岡真里</u>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
重症心身障害をもつこどもの採血に初めて付き添った母親の体験	2024 年 12 月	第 44 回日本看護科学学会 (熊本)	大北真弓, 村端真由美, 松岡真里

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
①子どもと家族が主体であること ②終末期の子どもと家族の体験と看護	第 20 回小児在宅ケアコーディネーター研修会	① 2024 年 5 月 19 日 ② 2024 年 12 月 21 日	松岡真里	小児在宅ケアに関わる病院・訪問看護師
質の高い小児緩和ケアを届けるために	ELNEC-JPPC	2024 年 2 月 1 日 2024 年 10 月 6 日	松岡真里	小児緩和ケアに携わる看護師
小児がん看護における倫理的課題	小児がん看護実践コース 日本小児がん看護学会	2024 年 10 月 12 日	松岡真里	小児がんに関わる看護師
『教育』と『ケア』～支援がこどもに届くために～	第 24 回三重県小児在宅研究会	2024 年 10 月	松岡真里	医療的ケア児に関わる看護・教育・福祉・医療職, 医療的ケア児の家族

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2023～2026 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本独自の文化に応じた死が近い子どもと家族とのコミュニケーションモデルの構築	研究代表者：平田美佳 研究分担者：松岡真里, 名古屋祐子, 古橋知子, 有田直子
2023～2026 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（B）	日本版小児緩和ケア看護師教育プログラムの実装評価と持続可能な教育提供システム構築	研究代表者：松岡真里 研究分担者：有田直子, 入江 亘, 南部美智子, 大北真弓, 平田美佳, 古橋知子, 石浦光世, 名古屋祐子, 竹之内沙弥香
2021～2025 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（B）	社会情動的スキルの発達を促すプログラムの開発と大規模介入研究による効果検証	研究代表者：細川隆也 研究分担者：桂 敏樹, 志澤美保, 塩見美抄, 松岡真里, 尾島俊之, 平 和也, 松本有貴
2021～2025 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	子どものいのちに関わる協働意思決定の実態調査研究～小児科医と家族の対話の構造化～	研究代表者：笹月桃子 研究分担者：酒井康成, 櫻井浩子, 松岡真里, 加部一彦, 板井孝一郎

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2022～2025 年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	重症心身障害児（者）の痛みを伴う処置場面における緩和ケアの基盤的研究	研究代表者：大北真弓 研究分担者：松岡真里， 村端真由美，岩本彰太郎， 宮崎つた子
2021～2024 年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	在宅で療養する炎症性腸疾患患児の感染予防のための支援方法の構築	研究代表者：村端真由美 研究分担者：矢野久子， 加藤はる，小池勇樹， 妹尾充敏，井上幹大

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
①学会の理事		
日本小児がん看護学会	教育委員会 委員長	松岡真里
日本小児がん看護学会	教育委員会	南部美智子
三重県小児保健協会	三重県小児保健学会企画等	松岡真里
②学術雑誌の査読委員など		
日本小児看護学会	専任査読者	松岡真里，村端真由美
日本小児がん看護学会	専任査読者	松岡真里
日本小児保健学会	専任査読者	松岡真里
日本小児臨床アレルギー学会	査読委員	村端真由美
三重看護学誌	査読委員	村端真由美
第 29 回日本緩和医療学会学術大会	査読委員	松岡真里
第 22 回日本小児がん看護学会学術集会	査読委員	松岡真里
日本小児看護学会第 34 回学術集会	査読委員	松岡真里
日本緩和医療学会	小児緩和ケア WPG 員	松岡真里
日本緩和医療学会	学術大会支援メンバー WG 員	松岡真里
③学会における座長		
日本小児看護学会第 34 回学術集会	テーマセッション座長	松岡真里
第 16 回国際小児がん学会アジア大会（SIOP Asia 2024）	一般演題座長	松岡真里
第 22 回日本小児がん看護学会	看護特別講演座長・シンポジウム座長	松岡真里
第 17 回東海地区小児糖尿病サマーキャンプ研究会	一般演題座長	村端真由美
④学会事務局		
第 22 回日本小児がん看護学会学術集会	学術集会長	松岡真里
第 22 回日本小児がん看護学会学術集会	現地プログラム委員	村端真由美，南部美智子

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
東海地区小児糖尿病サマーキャンプ研究会	世話人	村端真由美
第 24 回三重県小児在宅研究会	世話人	松岡真里
東海外来小児科学研究会	世話人	村端真由美
小児在宅ケア研究会	運営委員	松岡真里
第 6 回三重看護研究会学術集会	企画委員	村端真由美
Patient & Family-Centered Care 勉強会	事務局	松岡真里, 村端真由美, 南部美智子
みえ小児看護勉強会	事務局	松岡真里, 村端真由美, 南部美智子

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
①他大学の非常勤講師		
愛知医科大学大学院	感染看護学特論Ⅲ	村端真由美
三重大学教育学部	子どもの保健Ⅰ・Ⅱ	松岡真里, 村端真由美, 南部美智子
松阪看護専門学校	小児看護学Ⅱ・Ⅲ	村端真由美
②研修会の講師（附属病院レベルⅢ講師を含む）		
千葉県こども病院 緩和ケア研修	終末期を取り巻くコミュニケーション～その対話，こども不在になっていませんか？～	松岡真里
三重大学医学部附属病院	レベルⅣ 日常ケアから看護研究へ研修	松岡真里
三重大学医学部附属病院	レベルⅤ 日常ケアから看護研究へ研修	村端真由美
三重大学医学部附属病院	アピアランスケア指導者育成研修	松岡真里
三重県立子ども心身医療センター レベルⅡ研修	『看護倫理』『臨床倫理』について	松岡真里
三重県立子ども心身医療センター レベルⅢ研修	権利擁護と社会的責務	松岡真里
三重県立子ども心身医療センター レベルⅢ研修	講師：看護研究	村端真由美
社会福祉法人 びわこ学園	看護部研修	松岡真里
令和 6 年度三重県小児在宅看護研修会	研修企画・講師	松岡真里
みえキッズ&ファミリーホームケアクリニック サンクレールの森	研修講師	松岡真里
③ボランティア顧問 等		
三重ファミリールームボランティアの会	役員	村端真由美

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
U-cam（東海地区小児糖尿病サマーキャンプ研究会 学生部会）	顧問	村端真由美
AYAWEEK 実行委員	AYA 世代がんに関する啓発活動	南部美智子

老年看護学分野

過疎高齢化地域における高齢者および災害時要配慮者への防災対策に関する研究を行っており、主に教育プログラムの開発やシステム構築について研究しています。研究テーマは、災害時要配慮者の避難支援、避難所生活における健康維持、災害時要配慮者にならないための介護予防対策、認知症高齢者の災害準備支援、高齢者福祉施設における避難計画など、産学官連携事業としても展開中です。また、フレイル傾向のある地域高齢者を対象とした運動機能および認知機能の維持・向上に関する研究を地元企業との共同研究で進めているほか、急性期病院の認知症ケアにおける倫理的対応力向上の為の教育プログラム開発に関する研究を行なっています。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
Impact of motivation for eating habits, appetite and food satisfaction, and food consciousness on food intake and weight loss in older nursing home patients	2024.1	Annals of Geriatric Medicine and Research DOI:https://doi.org/10.4235/agmr.23.0185 Published online January 22, 2024.	Hidetaka Wakabayashi, Shoji Kinoshita, <u>Tokiko Isowa</u> , Kotomi Sakai, Haruka Tohara, Ryo Momosaki
Comparison Survey on Family Caregivers of Older Persons in Japan and Thailand	2024.2	Psychogeriatrics DOI: 10.1111/psych.13095 Epub 2024 Feb 21. 2024 May;24(3): 565-571.	Ryuno Hirochika, Greiner Chieko, Tamdee Decha, Okamoto Nahoko, Tamdee Patrapan, <u>Isowa Tokiko</u> , Boonchiang Waraporn, Baba Yuji, <u>Kitagawa Akiko</u>
日本の介護予防活動における高齢者リーダーに関する文献検討	2024.3	三重看護学誌 26:19-27 DOI:https://doi.org/10.69223/0002000377	清水満帆, <u>平松万由子</u> , <u>磯和勲子</u>
Time spent away from bed is associated with oral hygiene and oral function: A cross-sectional and multi-institutional study	2024.7	Journal of Oral Rehabilitation DOI: 10.1111/joor.13808	Ryosuke Yanagida, Haruka Tohara, Hidetaka Wakabayashi, Shoji Kinoshita, Kotomi Sakai, <u>Tokiko Isowa</u> , Kazuharu Nakagawa, Kohei Yamaguchi, Kanako Yoshimi, Ryo Momosaki
Associations of malnutrition factors with dysphagia mediated by ADL among nursing home residents	2024.12	Wiener klinische Wochenschrift DOI: 10.1007/s00508-024-02488-1	Kotomi Sakai, Shoji Kinoshita, Hidetaka Wakabayashi, <u>Tokiko Isowa</u> , Haruka Tohara, Ryosuke Yanagida, Ryo Momosaki

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
在宅療養を決断した後の終末期高齢者の意思のゆらぎに対する訪問看護師の看護支援	2024/5/25	三重看護研究会（三重県）	古川摩奈, <u>磯和勲子</u>
地域高齢者を対象とした包括的なフレイル予防プログラムの効果ーその1ー体力・運動機能への効果ー	2024/9/2-4	日本体力医学学会（佐賀県）	<u>Tokiko Isowa</u> , <u>Akiko Kitagawa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
地域高齢者を対象とした包括的なフレイル予防プログラムの効果ーその2ー認知力とうつ傾向に関してー	2024/9/2-4	日本体力医学学会（佐賀県）	北川亜希子, 坂井眞理子, 磯和勅子, 平松万由子
Awareness of disaster prevention measures among high school students participating in the Disaster Prevention Supporter Training Program	2024/11/30-12/1	The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Kobe)	<u>Tokiko Isowa</u> , <u>Akiko Kitagawa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u>
Concern About People with Dementia and Awareness of Support as People Requiring Special Consideration During Disasters by Local Residents in Coastal Areas of Western Japan	2024 年 11 月	The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Kobe)	<u>Mayuko Hiramatsu</u> , <u>Tokiko Isowa</u> , <u>Akiko Kitagawa</u>
STATUS OF ACTUAL STATUS OF EDUCATION AND TRAINING ON EVACUATION PREPAREDNESS IN THE EVENT OF TSUNAMI DAMAGE FOR DEMENTIA-CARE FACILITIES (GH) LOCATED IN AREAS EXPECTED TO BE INUNDATED BY TSUNAMI	2024 年 11 月	The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Kobe)	<u>Akiko Kitagawa</u> , <u>Tokiko Isowa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u>

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講演者名	対 象
避難所における健康問題について	講演会名：防災センターシンポジウム 主催：三重県・三重大学 みえ防災・減災センター	2024 年 6 月	<u>磯和勅子</u>	三重県民
認知症を地域で支える防災・減災支援	講演会名：世界アルツハイマーデーイベント 2024 in 鈴鹿 主催：鈴鹿市	2024 年 9 月	<u>磯和勅子</u>	鈴鹿市民
避難所における健康管理～災害時要配慮者支援～	講演会名：「医療講演会」 主催：中部電力	2024 年 9 月	<u>磯和勅子</u>	大紀町民
フレイルとその予防	講演会名：「健康教室」 主催：津市医師会	2024 年 11 月	<u>磯和勅子</u>	津市民

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2019年度～2024年度科学研究費補助金（基盤C）	高齢者福祉施設等における津波被害時の避難計画作成による防災対応システムの構築	研究代表：北川亜希子 研究分担：磯和勅子， 平松万由子，服部由佳，
2021年度～2025年度科学研究費補助金（基盤C）	地域互助力強化を基盤とした持続可能な高齢者防災システムの構築	研究代表：磯和勅子 研究協力：平松万由子， 北川亜希子，服部由佳
2021年度～2025年度科学研究費補助金（基盤C）	認知症高齢者の災害準備力尺度の開発と実態解明	研究代表：服部由佳 研究協力：磯和勅子， 平松万由子，北川亜希子
2021年度～2025年度科学研究費補助金（基盤C）	急性期病院の認知症ケアにおける看護職の倫理的対応力向上の為の教育プログラム開発	研究代表：平松万由子 研究協力：磯和勅子， 北川亜希子，服部由佳
2022年度～2027年度科学研究費補助金（基盤B）	科学的介護情報システムを用いた包括的介護サービス研究	研究代表：百崎 良 研究協力：戸原玄， 磯和勅子，堺 琴美， 若林秀隆，木下翔司， 山本吉則
中部電力（産学連携事業）	災害時要援護者対策および介護予防活動ならびに避難所運営支援の検討	研究代表：磯和勅子 研究協力：平松万由子， 北川亜希子，服部由佳
坂井電機（共同研究）	虚弱高齢者を対象とした車いす装着型の運動機器を用いた運動介入による効果	研究代表：磯和勅子 研究協力：平松万由子， 北川亜希子，服部由佳
三重県・三重大学 防災・減災センター調査研究事業	避難所生活における高齢者および要配慮者の健康障害の発生要因と効果的な対策に関する研究	研究代表：磯和勅子 研究協力：平松万由子， 北川亜希子，岸和田昌之， 川口 淳，広平理絵
三重県（委託事業）	実務者研修	代表：磯和勅子 協力：平松万由子， 北川亜希子

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本災害看護学会	代議委員	磯和勅子
日本災害看護学会	査読委員	磯和勅子
International Journal of Disaster Risk Reduction	査読委員	磯和勅子
三重看護研究会	事務局	北川亜希子
日本認知症ケア学会	代議員	平松万由子

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重大学 みえ防災塾講師	講師	磯和勅子, 平松万由子, 北川亜希子
三重県 地域包括ケアシステムアドバイザー派遣事業	アドバイザー	磯和勅子, 平松万由子
三重大学大学院医学系研究科認知症医療学講座主催;事例相談会(認知症サポート医フォローアップ研修会)	世話人	平松万由子
志摩市役所 介護・総合相談支援課「高齢期の運動指導者フォロー研修」	講師	磯和勅子
志摩市役所 介護・総合相談支援課「高齢期の運動指導者養成研修」	講師	磯和勅子
玉城町 福祉避難所	講師	磯和勅子
玉城町 福祉避難所運営訓練	アドバイザー	磯和勅子
三重県保健師助産師看護師教育実習指導者研修	講師	磯和勅子

広域看護学領域

精神看護学分野

精神看護学分野では、教授（片岡）、講師（北）、助教（田村）の3名で運営している。本分野では精神障害者がその人らしい生活を送ることができる看護実践の具現化を目指して研究活動を行っている。一例として、精神障害者のリハビリや当事者・精神科看護師のストレングスを活用した看護の構築を目指した研究（片岡）、うつ病患者の主観的症状を可視化する新たな生理学的指標に関する研究（北）、精神科看護教育の充実や腎移植レシピエントの精神面を支えるアプリケーション・ソフトウェア開発に関する研究（田村）と、幅広いテーマで研究に取り組んでいる。

また、博士前期課程に3名、後期課程には2名の院生が所属している。大学院生が取り組む研究も、精神障害者やこころの健康が損なわれている当事者の目線を大切にしたい研究、精神看護実践に直結する精神科看護管理者を対象にした研究を行っていることが特徴である。月に2回は博士前期課程と後期課程の学生が合同で研究進捗状況を話合う機会をもち、当事者に還元できる質の高い研究を目指している。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
入院歴のある地域で暮らす統合失調症者が体験する孤独	2024 年 6 月	日本精神保健看護学会誌, 33(1): 1-9	中井理賀, <u>片岡三佳</u> , 大江真人
Comparison of Adverse Events Following Immunosuppressant Administration for Pediatric Patients With Renal Transplants Categorized by Two-Year Age Increments Using the U.S. Food and Drug Administration Adverse Event Reporting System.	2024 年 7 月	Cureus, 16(7)	Toru Ogura, Chihiro Shiraishi, <u>Yuko Tamura</u> , Aiko Urawa
腎移植レシピエントのアプリによるアドヒアランス向上に向けた支援の検討	2024 年 11 月	学会誌「移植」59(2): 181-189	<u>田村裕子</u> , 渡部小央里, 浦和愛子, 佐々木典子, 西川晃平

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
精神看護学実習において学生が捉えた精神科医療の課題 COVID-19 感染拡大期の臨地と学内での実習の振り返りから	2024 年 3 月	三重看護学誌, 26, 29-37	大江真人, <u>片岡三佳</u> , 田村裕子
精神科病院における依存症看護専門チームが大切にしているアルコール依存症患者へのケア	2024 年 3 月	三 重 看 護 研 究 会 誌, 7(1), 44-54	三木俊貴, 中井理賀, 西田祐紀, <u>片岡三佳</u>
精神科看護管理者のリハビリ志向を高めるための教育プログラムの検討	2024 年 11 月	精神障害とリハビリテーション, 28(2), 73-79	松井陽子, <u>片岡三佳</u> , 宮田千春

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
アプリを利用した腎移植後レシピエント支援の有用性	2024 年 2 月	第 57 回日本臨床腎移植学会（愛知）	西川晃平, 西川武友, 加藤桃子, 東真一郎, 佐々木豪, 舩井 覚, 井上貴博, 田村裕子, 渡部小央里, 浦和愛子, 富家 淳
循環器疾患患者における夜間の睡眠時間が自律神経活動指標に与える影響	2024 年 3 月	第 88 回日本循環器学会学術集会（兵庫）	森脇佳美, 大島千佳, 片岡萌々華, 河野 葵, 大壁颯太, 新原桃香, 北恵都子, 栗田 操, 岩田千代, 玉腰浩司, 平井真理
患者虐待を繰り返さないために、自分たちができることを一緒に考えませんか？	2024 年 5 月	第 6 回三重看護研究会学術集会（三重）	片岡三佳, 北恵都子, 大西信行, 萩典子
腎移植レシピエントの自己管理を支援するアプリ導入前後の QOL 変化の検討	2024 年 5 月	第 6 回三重看護研究会学術集会（三重）	田村裕子, 渡部小央里, 浦和愛子, 佐々木典子, 坂本竜太, 富家 淳, 西川晃平
第 2 回インクルーシブ Cafe 精神科病院での虐待を防止するためにアドボケーターとしてできることは何か	2024 年 6 月	日本精神保健看護学会第 34 回学術集会・総会（千葉）	夫 博美, 福嶋美貴, 福田久仁子, 佐藤 寧子, 山内彩香, 片岡三佳, 安保寛明
ストレングスモデルを身につけよう！with 笑抱の会	2024 年 6 月	第 49 回日本精神科看護学術集会 in 熊本（熊本）	渋谷隆幸, 藪田 歩, 藤原稔章, 片岡三佳
維持療法中のうつ病患者のうつ症状の改善と関連する自律神経活動指標の検討	2024 年 7 月	第 21 回日本うつ病学会（大阪）	北恵都子, 中山奈津紀, 新原桃香, 森脇佳美, 河野 葵, 大壁颯太, 岩田千代, 栗田 操, 本田育美
腎移植後レシピエント支援アプリの利用と QOL への影響	2024 年 9 月	第 60 回日本移植学会総会（長崎）	田村裕子, 渡部小央里, 浦和愛子, 佐々木典子, 坂本竜太, 富家 淳, 西川晃平
精神科訪問看護における統合失調症をもつ人のストレングスを活かした関わり：国内文献の検討	2024 年 12 月	日本看護科学学会第 44 回学術集会・総会（熊本）	西田祐紀, 片岡三佳
日本における看護管理者を対象とした教育プログラムの開発に関する文献検討	2024 年 12 月	日本看護科学学会第 44 回学術集会・総会（熊本）	松井陽子, 片岡三佳
対話“患者虐待防止に向けて自分たちができること”	2024 年 12 月	日本看護科学学会第 44 回学術集会・総会（熊本）	片岡三佳, 山内彩香, 佐藤寧子, 福田久仁子, 福嶋美貴, 夫 博美, 安保寛明
統合失調症をもつ人の服薬アドヒアランスに着目した心理教育の実践	2024 年 12 月	日本精神障害者リハビリテーション学会 第 31 回 東京お台場大会（東京）	西田祐紀, 片岡三佳

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講演者名	対 象
医療系専攻学生のメンタルヘルス支援	第 15 回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会シンポジウム I	2024 年 11 月	片岡三佳	歯科衛生教育者

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研 究 課 題	研 究 者 名
2023 年度～2027 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）	ウェアラブルデバイスを活用した精神障害者の自己治癒法を促す訪問看護モデルの構築	片岡三佳，桐山啓一郎，田村裕子
2022 年度～2024 年度科学研究費補助金 基盤研究（C）	腎移植レシピエントの精神面を支えるアプリケーション・ソフトウェア開発と効果の検証	田村裕子，西川晃平，岡田元宏
2022 年度～2024 年度科学研究費補助金 基盤研究（C）	うつ病患者の主観的なうつ症状を可視化する生理学的指標を用いた新たな指標の開発	北恵都子，中山奈津紀

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本看護研究学会	査読委員	片岡三佳
日本精神保健看護学会	代議員，査読委員	片岡三佳
日本看護科学学会	代議員，査読委員	片岡三佳
三重看護研究会	副理事長	片岡三佳
The Journal of Nursing Investigation	編集委員，査読委員	片岡三佳
医学と生物学	査読委員	片岡三佳
日本精神保健看護学会第 34 回学術集会・総会	座長，査読委員	片岡三佳
日本看護科学学会第 44 回学術集会・総会	座長，査読委員	片岡三佳
第 6 回三重看護研究会学術集会	副大会長，座長，査読委員	片岡三佳
日本精神保健看護学会社会貢献委員会	副委員長	片岡三佳
日本精神科看護協会	査読委員	北恵都子

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
新しい精神障害者の地域生活支援を考える会「笑抱の会」	企画運営	片岡三佳
兵庫医科大学大学院	非常勤講師（看護倫理）	片岡三佳
大阪暁光高等学校看護専攻科	非常勤講師（精神看護学概論）	片岡三佳
令和6年度 三重県精神保健福祉基礎研修会【基礎技術編】「精神科領域における本人・家族への関わり方の基本」	講師	片岡三佳
三重大学附属病院研修会「ストレングスアプローチを用いた共育の試み」	講師	片岡三佳
三重大学附属病院研修会「レベルⅢ 日常ケアから看護研究へ 看護研究とは」	講師	片岡三佳
三重県市町保健師協議会 新任期保健師研修会及び業務研修会 (Sep, 20, 2024～)	講師	片岡三佳
2024 年度日本精神科看護協会岐阜県支部看護研究 発表会講評	講師	北恵都子
2024 年度日本精神科看護協会三重県支部看護研究 発表会講評	講師	北恵都子

在宅看護学分野

在宅看護学分野は、教授1名（岡本）、助教1名（西嶋）、兼務助教1名（西田）の3名で運営している。本分野は、在宅療養者とその家族の生活の質の向上を目指し、看護実践プログラムや在宅ケアシステムの開発と改善に関する研究を進めている。特に、終末期の療養者が在宅で自分らしく生活するために在宅緩和ケアや多職種連携、グリーフケアなどの在宅看取りを含む、在宅療養者とその家族が望む最期を可能にするケアシステムの構築に関する研究を推進している。また、2型糖尿病患者に対する熟練訪問看護師による在宅療養移行支援と、在宅療養継続のための支援、在宅生活を送る精神障害者への支援に関する研究を行っている。

<総説、報告、資料、論説、解説、その他>

総説、報告、資料、論説 解説、その他の名称	発行年月	発表誌名 巻(号): 頁	著者・共著者名
高齢在宅療養者の夜間緊急電話に対する熟練訪問看護師の臨床判断による訪問に至る事例の特徴	2024年3月	大阪公立大学看護学雑誌, 2: 1-8	門野杏子, 河野あゆみ, <u>岡本双美子</u>
精神科病院における依存症看護専門チームが大切にしているアルコール依存症患者へのケア	2024年3月	三重看護研究会誌, 7(1): 44-54	三木俊貴, 中井理賀, <u>西田祐紀</u> , 片岡三佳

<口述発表>

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
Decision-making support and multidisciplinary collaboration for home-based end-of-life care patients and their families	2024年3月	27st East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong)	<u>Fumiko Okamoto</u> , Kyoko Kadono, Hana Ohsugi, Akiko Koizumi
Effects of communication skills on the double tasks of nursing students pre- and post-home health practical training	2024年3月	27st East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong)	Kyoko Kadono, Ayumi Kono, <u>Fumiko Okamoto</u> , Miho Hamayoshi
Emotions of bereaved family members of Amyotrophic Lateral Sclerosis patients who chose to use tracheostomy invasive ventilation(TIV) about TIV decision-making	2024年3月	27st East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong)	Akiko Koizumi, <u>Fumiko Okamoto</u> , Hana Ohsugi, et al
Bereaved family members Experience caring for patients living at home with Amyotrophic Lateral Sclerosis using tracheostomy invasive ventilation	2024年3月	27st East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong)	Akiko Koizumi, <u>Fumiko Okamoto</u> , Hana Ohsugi, et al
在宅終末期療養者の家族へのケアと意思決定支援・多職種連携の実態	2024年3月	日本グリーフ&ビリーブメン学会学術大会 (京都)	<u>岡本双美子</u> , 門野杏子, 大杉 花
死別体験の有無による死生観の違いについて看護学生へのインタビューによる質的研究	2024年3月	日本グリーフ&ビリーブメン学会学術大会 (京都)	村上是づき, <u>岡本双美子</u> , 門野杏子
在宅看護学実習前後におけるARシュミレーター演習中のダブルタスク下でのコミュニケーションスキルの変化に対するKH Coderを用いた分析	2024年8月	第29回日本在宅ケア学会学術集会 (神奈川)	門野杏子, 河野あゆみ, <u>岡本双美子</u>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
精神科訪問看護における統合失調症をもつ人のストレングスを活かした関わり：国内文献の検討	2024 年 12 月	第 44 回日本看護科学学会学術集会 (熊本)	西田祐紀, 片岡三佳
統合失調症をもつ人の服薬アドヒアランスに着目した心理教育の実践	2024 年 12 月	第 31 回東京お台場大会 日本精神障害リハビリテーション学会 (東京)	西田祐紀, 片岡三佳

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研 究 補 助 機 関 名	研 究 課 題	研 究 者 名
科学研究費補助金（基盤研究 C）	在宅看取り実現へのアドバンス・ケア・プランニングの多職種連携教育プログラムの開発	岡本双美子, 西嶋智加, 西田祐紀
三重県	令和 6 年度三重県在宅医療・介護連携の推進にかかる調査分析事業	岡本双美子, 西嶋智加, 西田祐紀

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本グリーフ&ビリーブメント学会	理事	岡本双美子
日本看護科学学会	査読委員	岡本双美子
日本在宅ケア学会	編集委員	岡本双美子
日本死の臨床研究会	編集委員	岡本双美子
日本看護学会	査読委員	岡本双美子
人間福祉学研究（関西学院大学人間福祉学部研究会）	査読者	岡本双美子
日本在宅看護学会	在宅看護実践推進委員	岡本双美子
第 29 回日本在宅ケア学会	一般演題 座長	岡本双美子
三重看護研究会	事務局	西田祐紀
第 6 回三重看護研究会学術集会	学会事務局	西田祐紀
日本死の臨床研究会	査読者	西田祐紀

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
大阪府訪問看護ステーション協会 実態調査検討委員会	委員長	岡本双美子
おおさか介護サービス相談センター	専門相談員	岡本双美子
公益社 ひだまりの会	相談担当	岡本双美子
NPO 法人 愛逢	理事	岡本双美子
医療法人 ハートフリーやすらぎ	社員	岡本双美子
国立病院機構 兵庫中央病院	研究指導	岡本双美子
大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科 「在宅医療・人生の最終段階における医療」「患者家族等へのケア・グリーフケア（1）（2）」	講師	岡本双美子
特定行為研修「共通科目」「在宅医療の臨床判断・治療」	講師	岡本双美子
附属病院レベルⅣ 日常ケアから看護研究へ研修	サポート	岡本双美子

地域看護学分野

地域看護学分野では、国内外を調査フィールドとして、地域住民の健康に寄与する科学的根拠を創出する研究を大学院生とともに展開している。2024 年は、海外渡航自粛を解いたことから、海外フィールド調査や現地開催の国際学会に参加発表する（Kato and Tanimura, 2024）など、国際的な研究活動を再始動することができた。また、本分野は国際シンポジウム「Contemporary Advance in Global Health and Nursing」を主催し、著名な外国人研究者を招いて活発な討論を行うことができた。さらに、2024 年は教員の入れ替わりがあり、新しい教育研究体制が構築された。

2024 年に公表した研究成果として、空間疫学アプローチを援用した国内研究では、特定健診受診率と人口あたりの保健師数との関連における地域差を明らかにし（Mizutani, et al., 2024）、看護師の給与水準と人口あたりの看護師数との関連にも地域差が存在することを明らかにした（谷村, 2024a）。空間疫学アプローチを援用した国際研究では、インドネシアにおける小児肥満や過体重に地域集積性が存在し、その位置と大きさを明らかにした（Oktaviani et al., 2023）。これらに加えて、看護研究の研究デザインや統計的手法の基盤的な整備を継続している（谷村, 2024b）。

これらの研究成果をもとに、地域看護学分野ではさらなる新規プロジェクトを展開しており、地域住民の健康向上に資する具体的な政策提言を目指している。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
Spatial Clusters of High Participation Rates for Specific Health Checkups among Prefectures in Japan and Their Regional Factors	2024 年 3 月	Journal of St. Luke's Society for Nursing Research 27: 19-29	Mayumi Mizutani, Ritsuko Nishide, Nanako Saeki, <u>Susumu Tanimura</u>
若年労働者における肥満の有病率とその関連要因についての文献検討	2024 年 3 月	三重看護学誌 26: 11-18	岩瀬裕三子, 谷村 晋
Spatial Clusters of High Prevalences of Overweight and Obesity Among Children in Indonesia	2024 年 4 月	Cureus 16(4): e57370	Sofi Oktaviani, Mayumi Mizutani, Ritsuko Nishide, <u>Susumu Tanimura</u>
Timing of Assessment of Humoral and Cell-Mediated Immunity after Influenza Vaccination	2024 年 5 月	Vaccines 12(6): 584-584	Naruhito Otani, Kazuhiko Nakajima, Kumiko Yamada, Kaori Ishikawa, Kaoru Ichiki, Takashi Ueda, Yoshio Takesue, Takuma Yamamoto, Satoshi Higasa, <u>Susumu Tanimura</u>
Recovery in Mother-To-Mother Peer Supporters Who Have Experienced Difficulties in Child-Rearing: A Phenomenological Study	2024 年 12 月	Journal of Advanced Nursing	Chieko Nakashima, Koji Tanaka, Yuka Shinmasu, <u>Satomi Ikeuchi</u> , Kyoko Nagata
Factors associated with disaster preparedness among caregivers of infants and toddlers: a cross-sectional study	2024 年 12 月	Journal of Wellness and Health Care Vol.48(2) 27-39	Yuko Noguchi, Rie Okamoto, Shizuko Omote, <u>Satomi Ikeuchi</u> , Noriko Hirasawa

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発行年月	発表誌名 巻(号): 頁	著者・共著者名
看護学分野における横断研究の陥穽とその対策	2024 年 3 月	三重看護学誌 26: 39-51	谷村 晋

<口述発表>

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
若年性認知症の人の就労や社会参加を支える支援者の経験	2024 年 1 月	第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会 (北九州市)	池内里美, 岡本理絵, 高橋佑太郎, 表志津子
Open data and geospatial analysis in global nursing	2024 年 3 月	Contemporary Advance in Global Health and Nursing (Tsu, Japan)	<u>Susumu Tanimura</u>
テキストマイニング分析による全国勤務助産師の妊婦の冷え症に対する認識の検討	2024 年 5 月	第 80 回日本助産師学会 (東京)	近藤桃子, 安積陽子, 谷村 晋, 村端真由美
非管理職の看護師の給与水準と離職率の関連における地域差: 地理加重回帰モデルによる検討	2024 年 5 月	第 6 回三重看護研究会学術集会 (津市)	谷村 晋
Association between global solar radiation and acute myocardial infarction mortality: spatial regression model at municipality level in Japan	2024 年 9 月	Global Health Recalibration 2024 (Chiang Mai, Thailand)	Haruka Kato, <u>Susumu Tanimura</u>
メンタルヘルス不調者の職場復帰支援における産業保健看護職の人事労務担当者との連携	2024 年 10 月	第 34 回日本産業衛生学会全国協議会 (木更津市)	室野奈緒子, 表志津子, 中田ゆかり, 塚田久恵, 岡本理絵, 池内里美, 高橋佑太郎, 米澤洋美, 森河裕子
R による Black Marble データのハンドリング	2024 年 12 月	2024 年度統計数理研究所共同研究集会「データ解析環境 R の整備と利用」(立川市)	谷村 晋

<講演等>

演題名	講演会名 主催者	講演年月	講演者名	対象
統計勉強会	大学院 FD/SD 研修 東京保健医療大学	2024 年 11 月－ 12 月 (3 回開催)	谷村 晋	教員・大学院生

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2021～2024 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究C）	循環器疾患死亡と水道水硬度の関連：予防的効果に関する空間疫学的検討	谷村 晋
2024～2026 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究C）	非肥満高血圧予防の positive deviance 地域に関する空間疫学解析	水谷真由美，西出りつ子， 谷村 晋，西谷直子， 坂東春美，工藤紀子
2021～2024 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究C）	管理期自治体保健師のキャリア・アンカーの特徴と創造性・挑戦指向の萌出・発達の好機	西出りつ子，水谷真由美， 谷村 晋，白石知子， 小川将太
2024～2028 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究C）	自治体や教育機関が協働し新人保健師を支えるためのメンタリングプログラムの開発	池内里美，室野奈緒子， 表志津子，杉山希美， 合田友美，木原俊行， 田中浩二，中島千英子， 岡本理恵，高橋裕太郎
2024～2028 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究C）	ピアサポーター視点基盤の地域子育て支援者向けケアガイドラインの開発	中島千英子，田中浩二， 新增有加，池内里美， 長田恭子
2024～2027 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究C）	がん診療連携拠点病院に勤務する外来看護師の緩和ケアの認識と関連要因	岡本理恵，表志津子， 池内里美，高橋裕太郎
2022～2026 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究C）	若年性認知症の人の就労継続支援のための初期の就労包括支援プログラムの開発	表志津子，池内里美， 入谷 敦，奥野太寿生， 岡本理恵，高橋裕太郎
2021～2025 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究C）	ハイリスクアプローチ基盤の地域支援者向け自殺予防教育プログラムの開発	田中浩二，長山 豊， 長田恭子，池内里美， 岡本理恵，表志津子

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
Contemporary Advance in Global Health and Nursing	企画運営	谷村 晋，岩瀬裕三子
日本国際保健医療学会西日本支部	共同代表	谷村 晋
第 14 回公衆衛生看護学会学術集会	企画委員	池内里美
第 13 回公衆衛生看護学会学術集会	一般演題査読	岩瀬裕三子

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
神戸大学	非常勤講師	谷村 晋
鈴鹿医療科学大学	非常勤講師	谷村 晋
愛知県立大学	非常勤講師	谷村 晋
国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMID） 地球規模保健課題解決推進のための研究事業	評価委員	谷村 晋
四日市市旅館建築審査会委員	委員	谷村 晋
三重県地域包括ケアシステムアドバイザー派遣事業	アドバイザー	谷村 晋
三重県新任保健師三年次研修	講師	池内里美